

信濃美術館整備ミニ・フォーラム in 信州大学（概要）

日 時：平成 29 年 5 月 29（月）午後 6 時 30 分から午後 8 時

場 所：信州大学附属図書館中央図書館セミナー室

参加者：87 名

概 要

主な意見（アンケートへの回答を含む）

【新美術館の理念、コンセプト】

- 新しい信濃美術館が観光拠点になるような印象を受けた。作品をつくる人、見せる人、観る人は美術に興味がある人であり、この三者の場の外側には、美術館に来ない多くの人がいる。美術館に来ない多数の人に対するアクションがあまり見えない。
- 観光客だけでなく、地元に住む人にとって、もっと気軽に立ち寄れる場としての側面があると、より幅広い来館者につながるのではないか。
- あまり芸術の理解や知識のない人でも興味を持ってもらえるとよい。
- 美術館に併設されるミュージアムショップやレストラン等は重要。美術館に興味がない人にとってもそれらを利用することにより、結果的に美術館に通うようになれば美術館のファンが増えることにつながる。
- 美術館は堅いイメージや静かにしなければいけないイメージが強い。若者や子供連れの家族がもっと気軽に入れるような工夫が必要である。
- 松本合庁での意見交換会に参加した際、美術館を自分の作品の発表の場として考えている人が多くいることに驚いた。若い人の間では、美術館は新しいカルチャーやセンスの場として考えている人が多い。カルチャーを学ぶ場だけではなく、自分から美術について考えていく場にしてほしい。
- 今までの「美術館」の概念に捉われない新たな「美術館」の役割を求めたらよいのではないか。また、今の最新の考えで美術館をつくっても数十年後には過去のものになってしまうため、未来を予想した考えも重要だと思う。

【展覧会・コレクション】

- 人も勿論大事だが、作品が一番大切である。アーティストの人間性（個性）をクローズアップ（売り）にし過ぎることが懸念される。
- 若手の現代作家の作品を気軽に観られるようにしてほしい。
- 信濃美術館でしか展示されない作品や構成など特別感があるとわざわざ行きた

くなる。

- 巡回展をたくさん開催するよりも、それぞれの館だからこそできることを企画すべきではないか。その場で観るから価値があるもの、そこに行かなければ観られないものがあるからこそ、人がわざわざそこに足を運ぶのだと思う。
- 県内で現代美術が観られる場所が増えたらありがたいし、県外に出なければ観ることのできない巡回展を観られたらうれしい。
- 巡回展だけでなく、独自の企画展が観たい。
- 東京と同じ展覧会をやっても頭数が少ないため値段が割高になる。長野県だからできるものをやってほしい。
- 美術にあまり関心がない人にとっては、「有名な作品」というきっかけがないと足を運びづらいのではないか。
- 展覧会の開催、展示にスタンプラリーのような楽しい遊びがあればよい。
- 企画展と同じくらいコレクション展示をアピールしたらどうか。
- 善光寺や長野市に引っ張られ過ぎない、「長野県」の美術館としての企画。

【学びの支援】

- 上田市のサントミュージゼのように、小学校へのアーティストの派遣授業など、教育（特に、子供たち）へのアプローチを積極的に行ってほしい。

【他館や地域との連携】

- 県内美術館の中核を担える体制づくりと、オール信州としてのミュージアムをつくってほしい。（例：観光として、全館が分かる本の出版やスタンプラリー）
- まずは是非、第二都市である松本市との企画を行ってほしい。

【施設・設備整備】

- 絵画主義にならないような、広い展示スペースの確保。
- 学芸員不足を補うためにも、来館者の知的欲求を満たすためにも、ユニバーサルデザインの意味でも音声ガイドが必要。
- 古典的なバリアフリーの方法ではなく、見た目にも美しいものがよい。例えば、展示ブロックは見た目の主張が強く、また、車いす利用者にとっては邪魔になりやすい問題がある。
- 善光寺とセットで訪れる高齢者も多いと考えられることから、休憩スペースの充

実を期待する。

- 美術・芸術を目的としない学生等の学習スペースとして気軽に来館できるとよい。
- 光を上手に取り入れた明るい雰囲気のある建物のほうが入りやすい。閉ざされたハコであると、見た目を重視する若い世代を引き込むのは大変だと思う。
- 善光寺とマッチするよう、ガラスを多用しすぎない奇をてらわない建築。
- 洗練された建築が観たい。

【周辺整備等】

- 屋外に子どもやお年寄りが心安らげる広場のようなスペースがあるとよい。
- 長野駅前や善光寺周辺に行くと美術館の存在が感じられるような案内板の整備。
- バスで美術館に行った際、善光寺北のバス停で降りてから美術館に行くのに迷ってしまったので案内表示を工夫してほしい。

【その他】

- 外国人観光客を呼び込むためにも多言語対応が必要である。
- 城山公園や善光寺と共同で行う企画が観たい。
- 美術館に行く手前で、美術に関心を持つような広報をしてほしい。美術が分らない、敷居が高いイメージがあるので、そこを打開する広報が必要。
- チケットの半券で他の施設（信州の文化を体験できる工房など）が割引になるような仕組みはどうか。
- 県土が広い松本、長野、上田などに分館をつくってはどうか。
- 口コミ波及効果への積極的なアプローチ。例えば、各企画展時のブローカー内覧会、常設展示の写真撮影の許可。
- 寄附にクラウドファンディングを活用したらどうか。
- 金沢 21 世紀美術館は、若者は写真を撮って満足したり、兼六園などの観光地に行くついでに立ち寄り、時間がないため奥まで観られない人が多いのではないか。
- 金沢 21 世紀美術館は、SNS の普及による影響があると思う。レアンドロ・エルリッヒのプールで写真を撮る行為、それをインスタグラムにあげ、反応を求める若者が多いと思う。
- 若者が美術館に求めているのはフォトジェニック性があると思う。そちらにより過ぎると薄っぺらいものになるためよくないが、それなりに話題性を持ったものも必要かもしれない。

○私はコレクション展も観る派ですが、21世紀美術館の有料ゾーンには入らなかった。無料ゾーンにある作品で満足したこと、観光地としての場所として満足したことが理由です。

(以上)